



＜教育目標＞

- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども
- じょうぶな子ども
- よく考える子ども

平成31年1月8日(火)

練馬区立豊玉第二小学校

校長 永井 美奈子

豊二小だより 1月号

子供たちに身に付けさせたい力とは

校長 永井 美奈子

あけましておめでとうございます。新しい年の始まりにあたり、皆様方の御健康と御発展を心よりお祈り申し上げます。今年、十二支の最後にあたる亥年です。「亥」には、じっと固い種の中でエネルギーを貯めているという意味があるそうです。東京オリンピック・パラリンピックの開催や新学習指導要領の完全実施を翌年に控えた今年、様々な変化にしっかりと対応していけるよう、学校が着実に準備を進める大事な年となります。亥年にふさわしく、地道に努力を積み重ねながら、日々の教育活動の充実を図ってまいります。



さて、平成最後の年末年始、私にもほんの少し自由な時間ができ、この貴重な時間をどのように使おうかと思いを巡らせました。結局これといって面白いことは思い浮かばず、それならば読書をして視野を広げる機会にしようと思立ちました。久しぶりに訪れた書店でゆったりと過ごし、あれこれ迷いながら様々なジャンルから選書して、10冊ほど購入することにしました。

その中で、特に興味深く一気に読み進めた本は、教育経済学者 中室 牧子さんの著書『「学力」の経済学』です。人気テレビ番組で紹介されたことから反響が大きく、ベストセラーになっている本ですので、御存知の方も多いかと思います。私は、お恥ずかしいことに、教育の世界で生きていながら教育経済学という言葉にはあまり馴染みがなく、本を読むまでよく存じ上げませんでした。この本の中で、中室さんは、教育経済学者らが膨大なデータを分析し、科学的根拠に基づいて導き出した効果的な教育法について論じています。また、その教育が子供の将来にどのように影響をもたらすのかということを追跡調査等によるデータを基に分析し、明確に示している点も非常に説得力がありました。

私が最も関心をもって読んだ内容は、「非認知能力」の重要性です。「非認知能力」とは、IQ などでは測れない、意欲や忍耐力、自制心、協調性などの心の土台となるものだそうです。それに対して、IQ や学力テストで計測される能力は、「認知能力」とされています。もし、学力テストでいつも高い点数を取るような人が、実は感情をコントロールできなかつたり、忍耐力がなかつたり、まじめさに欠けたりするような人であったらどうでしょうか。恐らく、そのような人は、社会に出て認められることは難しいでしょう。逆に、非認知能力の高い人は、たとえ始めの頃は知識や経験の不足からうまくいかないことがあっても、学ぶ意欲を持続できるため、次第に良い状況へ改善し成功する確率が高いと言われていいます。このようなことから、非認知能力を身に付けることは、自分の人生をよりよく生きていくために大変重要であると考えられます。非認知能力は、人とかかわることにより獲得できるとされています。学校は、様々な教育活動を通して、教師やたくさんの友達とかかわり合いながら学ぶ場です。さらに、地域社会と連携した教育活動を工夫することによって、より多くの人とかかわり、多様な体験を通して、「意欲」や「自制心」、「忍耐力」等の生きる力を子供たちに身に付けさせていきたいと思ひます。

本日より、3学期が始まりました。平成30年度のまとめの3か月を教職員一同、心を一つにして教育活動を進めてまいります。どうぞ、豊玉第二小学校の教育活動に一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。